

# 長く暮らすための細やかな配慮、 防露・通気、耐久性。

## 住まいの耐久性

- 結露対策 ● 小屋裏換気
- 床下換気 ● 壁体内通気構造
- 結露防止

## 構造体の劣化を防ぐ 結露対策

住まいの性能が向上し、断熱・気密化が進んでいる昨今、室内外の温度差によって生じる結露が大きな問題になっています。結露の水分によって、構造体や断熱材が腐蝕・劣化し、住宅の性能に致命的なダメージを与えてしまいます。テクノストラクチャーは、構造体の耐久性を高めるための様々な防露対策を講じ、テクノビームや構造体の結露を防止しています。



テクノストラクチャーでは、結露対策として通気構造を採用しています。壁体内通気をはじめ、小屋裏換気、床下換気など、住まい全体の通気に十分配慮して、構造体の耐久性を高める工夫を施しています。

## 小 屋裏換気

屋根と天井の間にある小屋裏は、湿気や熱がたまりやすい部分です。冬場の湿気は結露の原因となり、夏のこもり熱は室内の温度上昇をもたらす、不快感やエネルギーロスを引きおこします。この小屋裏を効率よく換気するため、軒裏には有孔板等の換気口を、極には自然換気棟を標準仕様とし、軒下から棟へ空気が流れやすいようにしています。



※地域等の条件により、仕様が異なる場合があります。

■テクノストラクチャーの通気構造イメージ

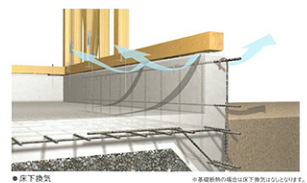
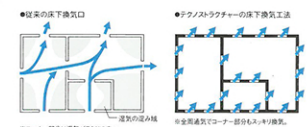


※地域、プランにより通気仕様が異なる場合があります。

## 床 下換気（床下換気工法）

床下換気工法により、床下の湿気を効果的に排出し、土台や柱脚部の腐れを防いでいます。基礎を切り欠かないため、基礎強度を低下させることもありません。

■平面図で見た排湿効果



※地域等の条件により、仕様が異なる場合があります。

## テ クノビームの結露防止

テクノビームの芯材となる目形鋼の結露防止として、外壁面やバルコニー部分のテクノビームに、ロックセラムフェルトやポリスチレンフォームを施工しています。

※結露防止には、ロックセラムフェルトを使用します。  
※北風側を中心とする1〜2階部分では、外周部分のテクノビームの裏面に断熱材を施工することによって防露に耐え、より安全な仕様となっています。



※テクノビームに短断熱材を貼り付け外気流がテクノビームを伝わって来るのを防止しています。

## 壁 体内通気構造

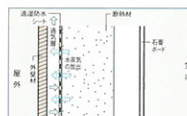
外壁の内部は、外気温と室温との温度差で結露が発生しやすくなっています。テクノストラクチャーでは、この壁体内結露を防ぐために、外壁材と透湿防水シートとの間に15mm以上の通気層を確保しています。室内から侵入して壁体内にたまる湿気を、通気層から排出する仕組みです。

外気温が低い寒冷地等では、より結露が発生しやすくなるため、断熱仕様もよりハイレベルの基準を設けています。

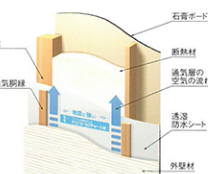


●壁体内通気構造  
土台水切から空気を取り入れ壁内通気層を通り、軒下または屋根裏より湿気が排出されます。

## ■ウレタン断熱仕様

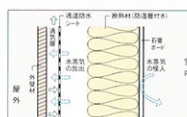


万が一、壁体内に湿気が侵入しても、通気構造により壁内に湿気内の湿気を外気へ通し、乾燥状態を保ちます。  
※寒冷地は断熱材の厚みが変わります。

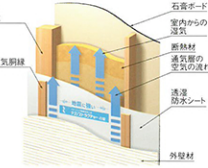


## ■繊維系断熱仕様

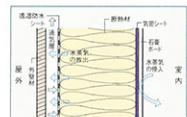
標準地・厚雪寒冷地仕様



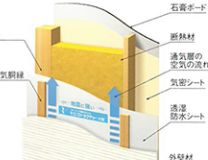
万が一、壁体内に湿気が侵入しても、通気構造により壁内に湿気内の湿気を外気へ通し、乾燥状態を保ちます。  
※寒冷地は断熱材の厚みが変わります。



寒冷地仕様



標準地は約2倍の厚みの断熱材で、断熱性能を確保。また、湿気侵入させない「気密シート」により高い気密性を確保します。  
※さらに断熱強化する場合、屋外側に断熱材を付加します。



※断熱材は裏に入った状態で施工されます。

※商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

